

桑原小・中の取組

小中一貫教育の取組について No. 2

桑原小学校長 小川和彦
桑原中学校長 武山昭見

より良い学校にするための挑戦

今回は、「桑原小・桑原中学校の一貫についての歩み」と「財産を生かしきれなかった理由」についてお知らせしました。今回は、「財産を生かしきれなかった理由」について付け加えをしてご説明し、今後、桑原小・桑原中として、どのようにしていきたいのかをご説明したいと思います。

1. 財産を生かしきれなかった理由 2

・職員配置の調整が難しかった。

＊小学校と中学校において、専門的な教科指導を行うことができるように、中学校の職員の一部が小学校で指導したり、逆に小学校の職員の一部が中学校で指導する体制をとっています。しかし、小学校、中学校それぞれに人事異動が行われることから、教科の調整が難しく、効果的な体制をとることが必ずしもできませんでした。

・リーダー指導の在り方等、一つ一つを共通理解することが難しかった。

＊小・中で合同の取組をする時に、中学生は、リーダーとして様々な役割を担います。ある意味、小学生のリーダーが果たしていた役割まで担うようになり、負荷がかかりすぎました。逆に、小学生が担っていた役割がなくなって、リーダーではなくなってしまうこともありました。9年間で、どのようなリーダー指導をしていくのかを詰めていく必要があります。こうした一つ一つの指導の系統について、共通理解を図る上で、校長の指導方針が一つであることが重要だと考えています。また、職員においても、共通の指導方針を持ちやすい環境が大切になると考えています。

2. 今後は、どのようにしていきたいのか

・小中一貫教育を行いやすい環境を整える。

＊校長の経営方針が一つとしやすい環境とする。基本的には、小学校、中学校とも、同じ校長であることが望ましいと考えています。その際、単に校長が一人減るのではなく、校長の経営方針に必要な職員を増やすことにより、補うことができるような方法を検討したいと考えています。

＊専門的な教科指導を行う上で、小・中の職員の乗り入れが行いやすくすることが大切です。そのためにも、小・中を見通した人事配置がなされるように、教育委員会との調整を行う必要があると考えています。

＊小・中の職員の乗り入れについては、いくつかの手続きを経て実施することができます。こうした手続きについて、少しでも簡素化されることが望ましいと考えています。

＊小・中の職員室を統合させたいと考えています。可能ならば、小・中の校舎を少しでも行き来しやすい環境にしていくことができないかを検討していきたいと思っています。



次号では、上記のような課題について他県や先進校の対応事例などをお知らせします。